

予防接種のお知らせ

5種混合ワクチン

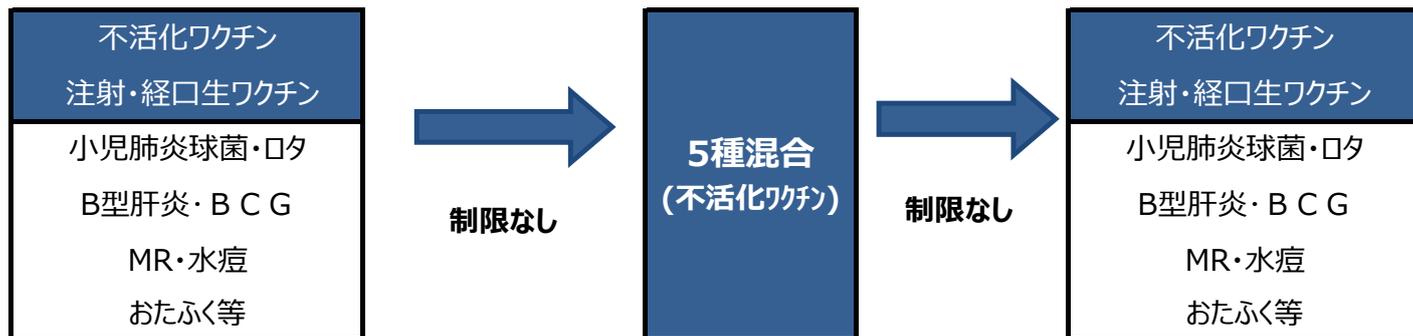
★平成31年4月2日以降生まれのお子さま

母子モ（デジタル予診票）が便利！ ぜひ、ご利用をご検討ください。

★紙の予診票を紛失した場合、糸満市ホームページからダウンロード可能。

標準接種期間	初回1回目：生後2ヶ月～7ヶ月の前日まで ----- 初回2回目：1回目終了後、3～8週間後 ----- 初回3回目：2回目終了後、3～8週間後 ----- 追加（4回目）：初回3回終了後、6ヶ月～1年半後
公費対象期間	生後2ヶ月～7歳半の前日まで
回数	4回 
接種場所	別紙「個別予防接種医療機関(南部地区)」 または本島内の医師会加盟医療機関（直接、医療機関へ問合せ） ※ <u>県外や県内離島での接種には糸満市からの依頼書が必要</u> です。 詳細は糸満市ホームページをご覧ください。お問い合わせ下さい。
料金	無料 対象年齢を過ぎると全額自己負担(約21,000円×4回)
持ち物	親子健康手帳、予診票、 住所が分かるもの(子ども医療費受給資格者証、マイナカード等)
接種済み印について (医療機関押印 ワクチンシール貼付)	・親子健康手帳に【5種混合】の欄がなく、【4種混合】【ヒブ】の欄がある方 ・・・【4種混合】【ヒブ】の欄へ押印・シール貼付。 ・親子健康手帳に【5種混合】の欄がある方・・・【5種混合】の欄へ押印・シール貼付。
その他	別紙「予防接種について」参照。

■ 他の予防接種との間隔(同時接種希望の場合は医師と相談してください。)



お問い合わせ先

糸満市役所 健康推進課 予防係

電話：098-840-8126



おしえて!! チックン!



◆5種混合ワクチンについて

令和6(2024)年4月1日より、従来の4種混合ワクチン(ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ)とヒブワクチンを合わせた5種混合ワクチンが定期接種の対象となりました。

■ジフテリア(D)とワクチンについて

- ・ジフテリア菌により発生する病気。主に気道の分泌によってうつる。眼球や横隔膜などの麻痺、心不全等をきたして重篤・死亡する。
- ・日本では予防接種によって激減し、2000年以降は報告なし。現在も、紛争やワクチン接種率の低い地域や集団では集団発生がある。
- ・ジフテリアにかかった場合、10%程度が亡くなるといわれている。また、特に5歳以下や40歳以上が重くなりやすく、最大で20%の者が亡くなるといわれている。
- ・ワクチンにより、ジフテリアの罹患リスクを95%程度減らすことができるといわれている。

■百日咳(P)とワクチンについて

- ・百日咳菌によって発生。主に気道の分泌によってうつり、激しい咳をともなう。
- ・乳幼児では呼吸ができなくなるために全身が青紫色(チアノーゼ)やけいれんを起こすことがある。
- ・また、窒息や肺炎等の合併症が致命的となることがある。
- ・百日咳にかかった場合、0.2%(生後6か月以内の場合は0.6%)のお子さんが亡くなるといわれている。
- ・ワクチン接種により、罹患リスクを80~85%程度減らすことができるといわれている。

■破傷風(T)とワクチンについて

- ・破傷風菌により発生。主に傷口から菌が入り込んで感染を起こす。
- ・80%以上が全身性破傷風というタイプで、このタイプにかかる10~20%の人が亡くなるといわれている。
- ・口が開きにくい、歩けない、排せつ障害などを経て、最後には全身の筋肉が固くなり、体がえび反りになり、息ができなくなり、亡くなることがある。
- ・ワクチン接種により、100%近い方が十分な抗体を獲得すると報告されている。

■ポリオ(急性灰白髄炎)(IPV)とワクチンについて

- ・ポリオウイルスが人の口の中に入り、腸で増えることで感染する。ウイルスは便の中に排泄され、他の人に感染する。
- ・ウイルスが脊髄の一部に入り、主に手足に麻痺があらわれ、その麻痺が一生残ってしまうことがある。
- ・海外では、南西アジアやアフリカ諸国でポリオが流行している地域がある。

■ヒブ(インフルエンザ菌b型)とワクチンについて

- ・「ヘモフィルスインフルエンザ菌b型」という「細菌」に感染することで発症する。「インフルエンザウイルス」という「ウイルス」に感染して発症する季節性インフルエンザとは別の感染症。
- ・主に気道の分泌により感染を起こし、症状がないまま日常生活を送る子どももいる。しかし、症状が進むと、肺炎、敗血症、髄膜炎などの重篤な疾患を引き起こす。これらを起こした者のうち3~6%が亡くなるといわれている。髄膜炎になると、生存したとしても20%に難聴などの後遺症を残すといわれている。
- ・ワクチン接種により、ヒブ感染症にかかるリスクを95%以上減らすことができる。

■副反応について

副反応とは、ワクチンを接種したあとに起こるかもしれない体の反応のことです。

5種混合ワクチンの主な副反応は、接種部位の紅斑、しこり、はれ、全身反応として発熱などが認められています。